

# 障がいで政治 障がいで政治



先日ある難病の方々が運営する病気のことや思いを共有するためのメーリングリスト（インターネット上で交流する場所）で、ある方が書き込んだ内容で一波乱がありました。わたしはそのご身体の不自由な方々をお手伝いさせていただく立場でそこに参加をしています。波乱のきっかけは今国政の大きな問題になっている「戦争法案」についてでした。

彼は動かぬ身体でありながらもこの法案に危機感を感じておられました。この法律案への賛否は色々あるでしょう。しかし、多くの方が、議論が不十分、今国会での採決は問題であるというのが世論調査でも示されています。であるにもかかわらず強引に民意を蹂躪する形で強行採決をすることにこの方は危機感を覚えたのです。

そこで彼はメーリングリストに「強行採決をやめて下さい」という署名を募るために呼びかけました。さっそくネットを通じて賛同を寄せる声が増えられました。しかし、それを快く思わない人もいたのです。彼を批判する人は病気の情報交換の場所で「政治活動」をする事はけしからんということでした。

何人かのかたからこういう書き込みは禁ずるべきとの声を書き込まれました。

見かねたわたしは患者さんには様々な考え方があり、その考え方を尊重するのが民主主義では無いのかと問いかけました。

そこからメーリングリストではこれをテーマに様々な意見が出されるようになり、いまだ収束をしていないようです。

このやり取りをみて、政治と福祉を切り離して考え、政治を公共の場所で語ることが悪いと思う人が少なからずいる事を知りました。

わたしは福祉の世界で長く仕事を続ける中で、政治が福祉を踏みつぶしてきた歴史を沢山見してきました。その政治の結果、国の予算の概算要求では「防衛費」が大きく膨らんできています。「防衛費」が膨らめばどこかを減らします。生活保護基準額は減りました。介護保険は軽度者がホームへの申し込みができなくなりました。ホームの食事代なども負担増のかたが増えました。

こうした中、多くの人の命が危機にさらされ、ときには大切な人の命が奪われています。また軍国日本の時代には、障がいを持つ方々は戦争に行けない「非国民」とさげすまれ差別をされました。ナチスは、障がい者を「劣るもの」ととらえ「断種法」が制定されました。

そういう人類の歴史の中、彼がこの法案に不安を覚えたのはなんの不自然もありません。

障がいとともに生きる者としての不安を言葉にし、皆に呼びかける、これは命を削り燃やしながら生きている人にとっては相当なご苦労だと思います。

政治と暮らしはつながっています。自らと家族の暮らしといのちを守るために行動されたこの方に敬意を表したいと思います。